

# ON!

**Old but New**

だいまるゆう

伝統を残しながら、変わり続ける街丸有

**大手町・丸の内・有楽町の**

街づくりを発信する情報誌



街と共に歩いて **東京駅開業100周年**



2014 WINTER

**033**



皇室・貴賓専用門の前で  
敬礼する江藤東京駅長

## ビジネス街の発展と共に歩んできた東京駅



第 24 代東京駅長 江藤 尚志

100 年前、長さ 335 メートルもの駅をつくるという発想がどこから生まれたのか、そのスケールの大きさに驚かされます。東京駅が誕生したことで新橋駅、上野駅、飯田橋駅等が繋がり、鉄道網が出来上がっていきました。これにより、丸の内への通勤スタイルも大きく変わり、以来、関東大震災や戦火にみまわれながらも、東京駅は大丸有地区の発展と共に歩んできました。

正面に皇居を臨み、行幸通りで一直線に繋がっているのも東京駅の大きな特徴です。2017 年に駅前広場が完成すると、外国大使の信任状捧呈式の馬列が再び東京駅から出発することになり、広場の活用と共に大丸有地区との一体感が一層出てくると思います。東京駅は列車が発着するだけの「駅」ではなく、人が集い出会う「場」として大きく変貌を遂げてきました。これから 100 年、ここでどんなドラマが繰り広げられるのか…。これからも、街と一体となり東京駅の可能性を広げていきたいと思っています。

「無事」という書と  
「富士」の絵が飾ら  
れている駅長室



1914年～

## 東京駅開業を機に 世界有数のビジネス街へ

東京駅の開業を機に、1916年に東京銀行集会所が、翌17年には東京中央郵便局が竣工し、1923年には丸ノ内ビルディングがオープン。同年9月1日、関東大震災が発生。この街は避難して来た人々を救護した。震災を乗り越え東京海上ビル、郵船ビルを擁するこの一帯は「一丁紐育（ニューヨーク）」と呼ばれ世界有数のビジネス街へとさらに発展した。



1923年に竣工した丸ノ内ビルディング

\*右側の池は建替が中断していた新丸ビルの敷地。戦時中は防災用貯水池となっていたが、1951年には新丸ビルの建設が再開した

1945年～

## 東京駅、新丸ビル、 行幸通りを中心に 戦後復興へ

戦時中は著しい物資不足や戦災により、この街の開発が止まり、さらに戦後は連合軍司令部により多くの建物が接収されるなど経済活動が制限された。しかし、終戦後間もない1947年、東京駅は戦災を受けた3階建てを2階建て駅舎として応急処置を施した。1951年には丸ビルの向かい側で新丸ビルが建設を再開し、竣工。ここに行幸通りを中心とした東京駅前の新たなランドスケープが完成した。こうして街は逞しく復興へとリスタートを切っていった。

戦後の街づくりは行幸通りを中心に進められた(1951年)



1960年～

## 「丸の内スカイライン」と 共に伸通りの幅員も拡張

戦後の復興期を経て、高度経済成長期を迎えると、オフィス需要の増加やモータリゼーションへの対応のため老朽化が進んだ赤煉瓦街の建物に代わり、近代的なコンクリート造りのビルが建てられていった。軒を並べるビル群は全て高さ31mで統一され、見事な一直線のスカイラインを保つ様子は街行く人々から賞賛された。また、建替と同時に丸の内伸通りも従来の幅員12.6mから21mへ大幅に拡張された。

高度成長期のオフィス需要増大によるビル建替と同時に伸通りも現在と同じ幅員になった



(1965年撮影)

1988年～

## 大丸有協議会が発足、 街は新たなステージへ

1988年、大丸有の地権者約70の企業・団体が「大丸有協議会」を結成し、街の再開発の基本構想を作成。2000年には「まちづくりガイドライン」を策定し、以来個々のビル建設からインフラ整備、防災・防犯活動や公的広場・歩道の維持管理に至るトータルなまちづくりを官民協調で取り組む。再開発に当たっては、ビジネス機能の強化だけでなく、商業施設や文化施設の充実も図り、観光都市や環境共生都市としての一面も確立した。東京駅は2012年10月に保存・復原工事が完成。我々の目前に100年前の開業当時の姿を現した。



2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、ますます進化する大丸有(2013年撮影)



## 東京駅と共に日本・東京の玄関口として 経済発展に対応

**JP POST 日本郵便** 東京中央郵便局長 野口 貴視

窓から東京駅を臨む旧郵便局長室にて野口局長



旧東京中央郵便局舎は1931年12月に竣工。当時、洋風建築の代表とも言える東京駅の赤レンガとは対照的なシンプルで白い装いの建物でしたが、機能、構造、デザイン共に世界最高水準の近代的ビルでした。また、郵便物を鉄道で輸送していたので、東京駅とは地下道で繋がっており、直接郵便物を運び入れることが可能でした。

その後、郵政民営化により、郵便局はその機能を拡大していきました。その象徴が2012年に竣工した複合ビル「JPタワー」です。外観は近代的な超高層ビルですが、その低層棟は、旧東京中央郵便局舎の躯体を一部保存・再生したもので、歴史的価値や、景観の美しさを現代に継承しています。さらに郵便局としての機能だけでなく、商業施設、ミュージアム、観光・ビジネス情報センター、国際カンファレンスセンターなどを備えた複合施設で、街や東京駅と一体となって賑わいを生み出しています。

今後は、さらにグローバル化が進む大丸有地区において、東京駅と共に日本・東京の玄関口としてさまざまな魅力を提供し、「おもてなし日本一」の郵便局を目指していきます。



白色タイルの外壁に黒色の建具枠の窓がモダンな竣工当時の東京中央郵便局(1931年竣工)



風格ある歴史的な景観を承継しながら、新しい技術とデザインを融和させたJPタワー(2012年竣工)

## 100年近くこの街の繁栄と共に歴史を刻む

 株式会社 明治屋 株式会社明治屋 小売事業本部 管理部長 江森 博行  
本社総合企画室 斉藤 千春



右から江森氏と斉藤さん

丸ビルの完成と同時に、当社が小売ストアと喫茶室を併設した「丸ノ内支店」を出店したのが1923年ですから、東京駅と共に100年近くこの街で歴史を刻んできたこととなります。当時、丸の内に勤務する方は時代の最先端をいくビジネスマンで、私たちの扱う高品質でハイカラな商品がマッチしたと思います。その後、震災や戦災に遭いましたが、幸いなことに大きな被害は

受けず乗り越えることができました。

戦後1947年、明治屋は駐留する外国人のために食品を供給するO・S・S (Overseas Supply Store) の認定を受け、輸入・食料品卸業として機能を回復してきました。高度成長期には法人のお客様の需要が多く、特に年末の御用納めの日には納品・販売される商品が多くて倉庫に入りきらないため、運送トラックをお店に横付けて、そこから商品を供給していました。

2002年の丸ビルの建替以降、客層が大きく変化しました。オフィスワーカーだけでなく、観光客や家族連れが多く来店されるようになりました。今後も東京駅とこの街と共に次の100年に向け歩んで行きたいと考えています。

旧店舗の中からは窓ごとに東京駅を臨むことができた



旧店舗（丸ビル行幸通り側の角地）前の行幸通りを駆け抜ける駐日大使信任状捧呈式の馬列（1996年）



# From 東京駅

一部の窓からは大丸有の  
さまざまな表情を楽しむ  
ことができる

まるで額縁の絵を見る  
ような行幸通りと、そ  
の先に見える皇居の緑



に伸びる行幸通り。かつては31mの高さで統一され、見事なスカイラインを保った様子が象徴的であった。現在も低層部は31mに保たれ、行幸通りを挟んで丸ビルと新丸ビルが調和している様子を丸の内駅舎正面からはっきりと見て取れる。※一般立ち入り不可。



丸の内北口付近から臨む大丸有

## ①窓辺により違って見える大丸有の風景

東京ステーションホテル TEL.03-5220-1111

東京駅開業の翌年にオープンしたヨーロッパスタイルの東京ステーションホテル。圧倒的に高い天井に合わせた縦長の窓から臨む独特の眺望も、このホテルの特徴といえる。300m以上続く横長の駅舎内にあるホテルは、その場所によって窓からの景色が異なるのも面白い。一部の部屋からは行幸通りの紅葉や年末に向けてのライトアップなど、大丸有ならではの季節感を窓越しに感じることが出来る。



有楽町、丸の内方面を一望できる南側のエグゼクティブツイン

# V I E W



## ③大丸有を俯瞰する

ホテルメトロポリタン丸の内  
TEL.03-3211-2233

東京駅の天空に位置するホテルメトロポリタン丸の内。まるで展望室にいるような客室からの眺望は「贅沢」の一言。ここからは、普段あまり見られない俯瞰した大丸有ビューを楽しむことが出来る。特におすすめなのは南側のエグゼクティブツインで、ここから眼下に臨む有楽町、丸の内方面は絶景。また、バスルームで入浴しながら見る夜景はまさに摩天楼にいる気分だ。



## From 大丸有

南ドーム部の真正面で眺望は抜群



## ⑥食事を楽しみながら東京駅を一望

### 丸の内ハウスのテラス(新丸ビル7階)

東側には東京駅丸の内駅舎を、西側には皇居、南側には丸ビルが見渡せる。夜間はライトアップされる東京駅を一望できる。木製のテーブルとベンチが設置され、昼はランチ、夜は軽く一杯と多くの人に利用されている。ただし、テラスへの飲食物の持ち込みは同フロアのレストランからのみとなる。

※雨天や強風時など閉鎖されることがあり。

テラスから眺める夜景は、昼の東京駅とはまた違った表情を見せる



## ④東京駅を一番間近に見るならここ

### JPタワー 屋上庭園「KITTE ガーデン」

KITTE6階屋上庭園の眼前には、丸の内の眺望が広がっている。特に東京駅の南ウイング部は手が届きそうなほど間近に見ることができるので、絶好の撮影ポイントとなっている。また、庭園にはウッドデッキの回廊沿いに芝生が広がり、さまざまな種類の

ベンチが設置されていて、ゆっくりとくつろぎながら眺望を楽しむ。

※雨天や強風時など閉鎖されることがあり。

まさに手が届きそうな東京駅の南ウイング部



## ⑤小さな展望テラスから東京駅を臨む

### 丸ビルテラス(5階)

このテラスはあまり知られていない小さなオープンエアデッキの展望スペースだが、正面に東京駅と駅前広場、右手にはKITTEを眺めることができる。床面の一部にすりガラスが使用されているため、夜間のライトアップ時には幻想的な雰囲気を醸し出している。

※雨天や強風時など閉鎖されることがあり。

東京駅丸の内駅舎が一望できる絶好のロケーション



# T O P I C S

## 東京駅開業100周年記念イベントを開催

2014年12月20日に東京駅は開業100周年を迎え、様々なイベントが開催されます。詳しくは東京駅開業100周年記念サイト (<http://www.tokystationcity.com/100years/>) をご参照ください。

### ■東京駅開業100周年記念イベント概要

#### 1. 記念セレモニー 12月19日(金)

【東京駅開業100周年記念式典】東京ステーションホテル4階 アトリウム(招待客のみ)  
【101年目の出発式】東京駅10番線ホーム

#### 2. 東京ステーションギャラリー等における特別企画展

【東京駅開業100周年記念展(仮題)】11月22日(土)～2015年2月16日(月)

場所：鉄道博物館(さいたま市 大宮区)

【東京駅開業百年記念 スペシャル・オープン・ウィーク】11月18日(火)～11月30日(日)

場所：東京ステーションギャラリー(東京駅内)

【東京駅開業百年記念 東京駅100年の記憶】12月13日(土)～2015年3月1日(日)

場所：東京ステーションギャラリー(東京駅内)

#### 3. 東京駅グランルーフイルミネーション

期間：12月1日(月)～2015年1月12日(月・祝)(予定)

時間：17:00頃～23:00 ※荒天の場合は、点灯を見合わせる場合があります。

場所：東京駅八重洲口グランルーフ

主催：東京ステーションシティ運営協議会

## 丸の内イルミネーション2014

丸の内仲通り沿いの街路樹約240本等が、丸の内オリジナルカラー“シャンパンゴールド”のLED約111万球で上品に光り輝きます。世界で一番地球にやさしいイルミネーションがさらに進化し、昨年と比べ使用電力を1球あたりさらに30%カットする『NEWエコイルミネーション』を一部に採用しています。



丸の内イルミネーション過去開催の様子

**主 催：**丸の内イルミネーション実行委員会  
(東京都、千代田区、一般社団法人  
大手町・丸の内・有楽町地区まち  
づくり協議会)

**協 力：**三菱地所株式会社

**実施期間：**11月13日(木)～

2015年2月15日(日)(予定)

**点灯時間：**17:00～23:00(予定)

\*12月は24:00まで点灯(予定)

**場 所：**丸の内仲通り 他

## 未来を照らす、光の祝典「東京ミチテラス2014」開催

東京駅丸の内駅前広場の整備が進むなか、今年も丸の内地区から希望のメッセージを届けていこうという願いをこめ、光のイベント「東京ミチテラス2014」が開催されます。開業100周年を迎える東京駅の丸の内駅舎には、100年前の開業時にちなみ“大正浪漫の色彩”でライトアップする「東京駅メモリアルライトアップ」がお目見えします。そして、行幸通りでは最先端のイルミネーション技術を用いた演出を予定、大丸有地区では様々なアーティストが手がけた「ディズニーキャラクター・アートオブジェ」が登場します。



(実施イメージ)

### ■東京ミチテラス2014

**期 間：**12月24日(水)～28日(日) \*一部展示は12月1日(月)から

**会 場：**東京・丸の内エリア

**主 催：**東京ミチテラス2014実行委員会(東京都、千代田区、東京商工会議所、東日本旅客鉄道株式会社、三菱地所株式会社、株式会社東京国際フォーラム、NPO法人大丸有エリアマネジメント協会、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、株式会社ジェイアール東日本企画)

**後 援：**国土交通省観光庁、東京都、千代田区、公益社団法人東京観光財団、千代田区観光協会(いずれも予定)

**特別協賛：**東日本旅客鉄道株式会社、三菱地所株式会社



**編集** 編集を通じて、大丸有地区はこの100年で大きく変化してきましたが、未だ変わらず脈々と受け継がれている部分も多く存在し、「街の深み」を改めて実感しました。ぜひ、皆様も肌で感じに訪れてはいかがでしょうか。



発行：一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会

〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1

大手町ビル635区

TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/>

\*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら下記までお寄せください。  
[machizukuri@otemachi-marunouchi-yurakucho.jp](mailto:machizukuri@otemachi-marunouchi-yurakucho.jp)

東京駅 丸の内駅舎周辺ライブカメラ

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/live/>

「丸の内仲通り」が2014年度グッドデザイン賞受賞  
「ハード整備とエリアマネジメントの活動が一体となってはじめて生まれた、日本を代表する質の高い街路空間のお手本」との評価を受けました。



「大丸有(だいまるゆう)」とは、大手町の「大」丸の内の「丸」有楽町の「有」からとった造語です。